

2025年4月1日現在

東京大学経営協議会学外委員の選考理由

氏 名：漆 紫穂子（うるし しほこ）

現 職：品川女子学院理事長

略 歴：1986年 4月 私立調布学園（現田園調布学園）入職  
1989年 4月 品川女子中学・高等学校（現品川女子学院）入職  
2000年 4月 同 副校長 就任  
2006年 4月 同 校長 就任  
2017年 4月 同 理事長（現職）  
2019年 3月 早稲田大学スポーツ科学研究科 修士課程 修了

経営協議会委員の在任年数：2年

本学との関係（総長、理事等、常勤教職員の経験）：該当なし

【選考理由】

漆 紫穂子 氏は、私立中高一貫校で国語科教員として勤務後、1989年に品川中学校・高等学校（現品川女子学院）に入職、さらに副校長、校長の管理職として長年、初等・中等教育の学校運営に携わり、2017年からは理事長として学校経営にも携わっている。この間、生徒が卒業後10年目の自分の姿を意識してモチベーションを高める「28プロジェクト」など、さまざまな学校改革に取り組み、1990年代には経営危機にあった同校の志願者数を約30倍に増加させるなどの目覚ましい成果をあげている。また、民間企業の社外取締役を多数務めるほか、文部科学省、内閣府や公益社団法人の委員会委員、評議員なども多数務めるなど、官民にわたり広く多様な分野での意見交換、議論を重ねてきた経験も有している。2023年からは経営協議会学外委員として、本学の経営に関する重要事項についての有益な助言を与えていただいている。

以上のように、その経歴から、同氏が経営に関する専門的知見など高い識見を有し、大学法人の経営に広く社会の多様な意見を反映させられるよう意見を述べるとともに、必要な助言を与えられること、本学の理念と目標を共有し、「世界の公共性に奉仕する大学」を目指し、その実現に貢献できること、及び本学と社会のステークホルダーの双方向的な連携を推進し、互いに共通する公共的な利益を追求できるよう尽力する意思を有することが認められる。すなわち、「東京大学経緯協議会の学外委員の選考方針について（令和3年3月18日 役員会決定）」に定める選考方針各号に掲げる事項を全て満たしていると判断できる。